

研究業績書

令和 03 年 05 月 01 日

氏名 那須 秀行 印

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
I 著書				
1) CLT (Cross Laminated Timber) 構法の実用化に向けて	単著	平成25年03月	木の建築フォーラム NP0 木の建築 35号 pp. 38-41 分担執筆	主に建築および林業に従事する人に向けた「木の建築」の中で、大規模木造建築の普及への有効な構造のひとつとしてCLTを活用した構法の実用化に向けて執筆したもの。北欧の実例紹介や、当研究室で進めているCLTの床壁接合部の実験や壁脚部の潰れ実験等を掲載し、国産木材の有効活用の意義や効果について解説。
2) 木質構造における教育の実状と将来について	共著	平成17年09月	日本建築学会 pp. 1, 91-97	第一部で日本の木質構造教育の現状を把握すべく大学高等専門学校、工農業高校へアンケートを実施。第二部で教材として使用できるよう木材・木質建材の材料特性から木質構造の力学特性・接合方法・実例を網羅。これ一冊で木質構造の入門書として利用できるように目指して作成。 担当：主旨及び水平構面 (木質構造教育プログラム策定小委員会；主査：野口弘行、幹事：那須秀行)
3) Wood industry 木材工業	共著	平成17年08月	社) 日本木材加工技術協会 木材工業誌 Vol. 60 No. 8 連載 木造建築の未来 pp. 418-421	木質構造の未来という連載で木質梁勝ちラーメン構造の開発と題して執筆。家族の記憶が醸造され代々受け継がれるような躯体であってほしいとの開発理念とラーメン構造として必要な高い接合剛性と強度を実現するため技術上のキーポイントを解説。 担当：木造建築の未来(8) 木質梁勝ちラーメン構造の開発 (日本木材加工技術協会；会長：林知行)

(業績書様式第1)

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
4) 木造建築工事標準仕様書	共著	平成16年09月	国土交通省大臣官房官庁営繕部 社) 公共建築協会 pp. 60-77	官舎・駅舎・役所・学校等で木造を建設する際の共通仕様書となる本書を作成。「2003年官庁営繕関係基準類等の統一化に関する関係省庁連絡会議」の決定を受け、木造建築工事標準仕様書が統一基準として作成されたもの。 担当：5章 軸組構法 (木造建築工事標準仕様書作成委員会；主査：野口弘行)
5) 木造住宅の新しい耐震設計の考え方	共著	平成13年11月	日本建築学会 pp. 299-311	性能規定で用いる諸数値を求める実験方法・評価方法・応力解析方法・設計方法等を示した書籍で、耐震設計が仕様規定から性能規定へと変革。その実用化に向け建築学会で製作・発売されたもの。 担当：第7章 工業化工法 限界耐力計算による実例 (木質構造運営小委員会および木質構造動的性能小委員会の共同製作)

(業績書様式第1)

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
<p>II 学位論文</p> <p>1) 枠組壁構法における床ダイヤフラムの面内せん断挙動に関する研究</p> <p>2) 木造軸組住宅における構造合理化に関する研究</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成02年03月</p> <p>平成17年03月</p>	<p>明治大学 修士学位論文 学位記 工99号</p> <p>明治大学 博士学位論文 学位記 理工127号</p>	<p>直交異方性を有する木部材にFEM解析手法の適用の可能性を試みたもので弾塑性解析まで実施。 併せて、開口部の位置や大きさの影響、施工誤差を想定し合板どうしの隙間の影響について論じたもの。 木質構造への解析の導入期にあってその先鞭をつけた論文。 一方、実大での床構面実験も実施し、FEM解析との整合性確認も行った。</p> <p>木造の柱梁構法に関する研究で、二部構成としている。第一部では在来構法を取り上げ、面材耐力壁を用いて初期剛性並びに靱性向上を図り、かつその挙動分析をしたもの。また、面材耐力壁による柱脚部の接合補強効果等についても数多くの要素実験と共に実大静加力実験も実施して論じた。 第二部では木造の新しい構法そのものを提案。木造ラーメン構造を実現するため高剛性・高強度・高靱性の接合方法およびそれを用いた構造システムを研究、実用化につなげた。</p>

(業績書様式第1)

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
<p>Ⅲ 学術論文 (査読あり)</p>				
<p>1) 国産枠組材と国産合板を用いた高強度枠組壁工法耐力壁の開発</p>	共著	令和02年03月	Journal of Timber Engineering Vol. 33 No. 1 pp. 9-16	<p>枠組壁工法は元々北米由来のため輸入材の利用率が高いが、流通やストックが可能な比較的小断面な規格材を利用することから、本工法に国産材を利用できれば林業の活性化につながる。公共建築にも利用可能な高強度耐力壁を開発することで用途拡大も可能である。本研究は、この目的達成のため、まず始めに釘接合部一面せん断試験を行い材の最適な組み合わせを決定。その後、柱脚固定式およびタイロッド式にて実大耐力壁の面内せん断試験を行い耐力壁の水平せん断性能を証明したもの。 (加藤大喜、那須秀行、河原大、青木謙治)</p>
<p>2) 枠組壁工法へのシアリンク式摩擦ダンパーの適用に向けた研究</p>	共著	令和02年02月	日本建築学会 技術報告集 第62号, pp. 97-102	<p>枠組壁工法合板張耐力壁にシアリンク式摩擦ダンパーを併用したシステムを提案した。繰り返し地震に対しその性能維持が可能であること、エネルギー吸収量も大きく、剛性の高い建物にも適用可能であることを検証した。また、主に層間変形の低減効果を把握すべく各種実験を行い、かつ解析モデルを構築しその妥当性について検討を行った。 (里見凌一、後藤尚哉、齊藤義克、那須秀行)</p>
<p>3) 嵌合連結合板による高耐力構面の開発</p>	共著	平成30年06月	日本建築学会 技術報告集 第57号, pp. 625-630	<p>耐力壁を構成する隣り合う合板どうしの突き合わせ部を工夫し、直接的な応力伝達を可能とすることで連結部のせん断抵抗力を加え弾性域が長く高耐力の構面を構築することが目的である研究。 これにより構造面材利用の用途が更に広がる可能性がある。 (遠藤清一、稲山正弘、小林研治、青木謙治、那須秀行)</p>

(業績書様式第1)

4) 木造K型ブレースにおける耐力及び接合部の特性の研究	共著	平成27年11月	日本地震工学会 年次大会・国際シンポジウム2015	木質構造の新たな耐震要素として木造K型ブレースの加力試験を行い、耐力や接合部特性の検討を行った。施工性を考慮し接合金物を一面せん断と二面せん断による接合仕様とし、それぞれの耐力や破壊形状の把握と比較を行った。結果、木造K型ブレースを使用することによる耐震性能の把握が可能となった。 (幸田飛鳥、多田修二、那須秀行、伊東柁彦)
5) 複合応力下(曲げモーメント・せん断力・軸力)における大径ボルトを用いた木質ラーメン接合部に関する研究	共著	平成24年03月	日本建築学会 構造系論文集 No. 673, pp. 389-396	大径のスクリーボルトを木材に埋設した接合部を研究開発した。その部分実験、実大接合部実験、有限要素法解析を行い、複合応力下においてせん断力と軸力が引抜耐力に与える影響を把握した。試験体は36タイプ計162体という膨大な数を行いそれらの結果を検証、考察したもの。 (野口弘行、那須秀行、岩崎誠司、柳澤瑞穂、小林幹大、萩生田秀之)
6) 木質ラーメン構造による実大3層立体フレームの振動台実験	共著	平成19年07月	日本建築学会 構造系論文集 No. 617, pp. 129-135	実大振動台実験を実施し、その挙動を分析したもの。併せて、想定外の大地震後であっても軽微な補修を施すことで安全性を維持する効果についても検証。ダメージ状況を変えた複数回のフェーズで加振した。なお、木造3層での実大振動台実験は当時世界初。 担当：リーダーとして全体計画、実験の実施、考察、およびまとめ (那須秀行、石山央樹、山本徳人、高岡繭子、三宅辰哉、野口弘行)
7) 大径ボルトを用いた木質梁勝ちラーメン構造の開発ー構法概要、接合部実験ー	共著	平成17年12月	日本建築学会 技術報告集 第22号, pp. 193-198	世界初の木質梁勝ちラーメン構法システムを確立。力学上のキーポイントは、大径のメカニカルスクリーボルトを埋め込み木材のめり込み変形を抑えたこと、接合部の応力伝達を金物どうしが直接行うよう工夫し高い接合剛性と強度を確保。そして靱性を金物部品(鋳鋼)の変形で担保していることで

(業績書様式第1)

<p>8) 大径ボルトを用いた木質梁勝ちラーメン構造の開発 —実大骨組構造物の弾塑性挙動予測—</p>	<p>共著</p>	<p>平成17年12月</p>	<p>日本建築学会 技術報告集第22号, pp. 199-204</p>	<p>ある。 担当：研究開発リーダーとして全体の取りまとめ、企画、構法のアイデア出し、接合部実験の実施等 (<u>那須秀行</u>、石山央樹、山本徳人、高岡繭子、三宅辰哉、野口弘行)</p> <p>前記の木質梁勝ちラーメン構法の3層の実大静加力実験を実施。これに先だって実施した数多くの接合部単体での実験を踏まえその挙動を一軸の弾塑性バネとして設定。それら単体接合バネで構成した全体フレームモデルを作成し挙動を分析、実大実験との整合性を論じたもの。将来の改良を見据え挙動予測と構造安全性を確認できるようモデル化を行った。 担当：構法開発、解析モデル構想、実験のフィードバック等。 (石山央樹、<u>那須秀行</u>、山本徳人、高岡繭子、三宅辰哉、野口弘行)</p>
<p>9) 木造軸組構法における柱脚接合部に 入力される引張力に関する研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成16年12月</p>	<p>日本建築学会 構造系論文集 No. 586 pp. 139-146 平成23年7月刊行 日本建築学会「木質系耐力壁形式構造Q&A」(5版115頁、1,800円)に内容の一部が掲載許諾の上引用された。</p>	<p>3体の実大静加力実験および9タイプ27体の柱脚部単体実験を元に論じた。面材耐力壁構法と筋かい構法の違い、通し柱構法と管柱構法の違い、直交壁による効果、幅1820mmの単体静加力実験結果の加算則による実大建物の挙動予測等一連の研究を進める中で、柱脚の引張力について仕様規定や設計法が求める値の合理性を検証。結果、諸基準類の要求は過剰であること、ホールダウン金物の取付き勝手が柱のロッキングの影響を受けること、耐力面材や筋かい金物による拘束効果があること等を明らかにした。 担当：全体の取りまとめ、実大実験の実施および各種部分実験の実施。 (<u>那須秀行</u>、石山央樹、野口弘行)</p>

(業績書様式第1)

<p>10) 穴あき PC 板を用いた耐力壁工法の開発 ー工法概要, 施工実験, 構面せん断実験ー</p>	<p>共著</p>	<p>平成12年06月</p>	<p>日本建築学会 技術報告集 第10号 pp. 77-82</p>	<p>RC系集合住宅の新工法を研究開発、工法概要、施工検証実験、構面のせん断実験について報告した。戸境壁(梁間)方向に穴あきプレストレストコンクリート板を耐力壁として用いたもので、部材自体は生産効率が高く安価であるが、面内応力に対する破壊性状は脆性的である。しかしながら、アンカー筋や臥梁などの耐力をこの壁板のそれより低くバランス良く設定することで構面としての水平変形能力を確保したもの。工法として38条個別認定を取得。 担当: 構法アイデア出し、施工検証、各種部分実験および実大2層構面実験。 (那須秀行、桐山伸一、三宅辰哉、飯田秀年、香取慶一、林静雄)</p>
<p>11) 穴あき PC 板を用いた耐力壁工法の開発 ー穴あき PC 板の破壊性状および建物の耐震性能評価ー</p>	<p>共著</p>	<p>平成12年06月</p>	<p>日本建築学会 技術報告集 第10号 pp. 83-88</p>	<p>各種構造実験および解析を元にプレストレストコンクリート板の先行破壊防止要件を検証したもの。部分実験として臥梁を含むせん断実験、板の柱脚部の曲げ実験。実大での2層2構面せん断実験を実施。FEM解析による板のせん断応力度、フレーム解析による構面の挙動解析も実施、耐震性能を評価した。 担当: 各種部分実験および実大2層2構面せん断実験、解析モデル構想。 (那須秀行、桐山伸一、三宅辰哉、飯田秀年、香取慶一、林静雄)</p>
<p>12) 有限要素法による木質ダイヤフラムの弾塑性解析</p>	<p>共著</p>	<p>平成02年12月</p>	<p>日本建築学会 情報システム利用技術シンポジウム論文集 pp. 283-288</p>	<p>枠組壁工法の床ダイヤフラムの面内水平挙動を弾塑性FEM解析で追ったもの。併せて開口部の位置や大きさの影響、施工誤差を想定し合板の隙間の影響についても論じた。接合部を含む木質構造について解析による挙動把握は困難と言われていた解析黎明期の論文。 担当: 解析モデルの改良、床ダイヤフラムの挙動検証 (那須秀行、野口弘行)</p>

(業績書様式第1)

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
IV 学術論文 (査読なし)				
1) フラードームの挙動に関する研究 基本パネルのライズ、テーパー、接合具、合板の有無による実験的検証	共著	令和02年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2020, 第24回技術発表会	(山口優、大西郷、 <u>那須秀行</u> 、和田啓宏)
2) CompWood 2019 出張報告 International Conference on Computational Methods in Wood Mechanicsで研究発表	単著	令和元年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2019, 第23回技術発表会	
3) CLTを対象としたドリフトピンを用いた鋼板挿入型接合部の引張り加力試験	共著	平成31年03月	関東学院大学 理工/建築・環境学会 研究報告 第62巻, pp. 87-100	(神戸渡、西川靖子、渡邊華子、 <u>那須秀行</u> 、青木謙治、大西郷、馬場己昌、吉田将宜)
4) 長ビスで補強した木質材料の有孔梁のせん断加力試験	共著	平成31年03月	関東学院大学 工学総合研究所報 第47号, pp. 3-10	(神戸渡、 <u>那須秀行</u> 、青木謙治、渡邊華子、西川靖子)
5) 木質特殊トラス屋根架構の構造性能に関する研究	共著	平成31年03月	JTE, Journal of Timber Engineering Vol. 32 No. 1 pp. 161-166	(濱口聡史、土屋宏騎、松尾和午、新井里佳、ジロンニコラ、中西規夫、大西郷、 <u>那須秀行</u>)
6) CLTを対象とした鋼板挿入型接合部の引張加力試験 その1 実験概要及び試験結果	共著	平成30年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2018, 第22回技術発表会	(吉田将宜、馬場己昌、 <u>那須秀行</u> 、西川靖子、渡邊華子、神戸渡)
7) CLTを対象とした鋼板挿入型接合部の引張加力試験 その2 比較と考察	共著	平成30年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2018, 第22回技術発表会	(馬場己昌、吉田将宜、 <u>那須秀行</u> 、西川靖子、渡邊華子、神戸渡)
8) テープ状制振素材又は塗布状制振素材による木造制振耐力壁の効果に関する研究	共著	平成27年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2015, 第19回技術発表会	(<u>那須秀行</u> 、伊東柁彦、吉田貴俊、柳原直也)
9) 画像解析による木材のひずみ分布と割裂性状の把握に関する研究	共著	平成27年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2015, 第19回技術発表会	(並木博一、落合芳樹、 <u>那須秀行</u>)

(業績書様式第1)

10) OSB-釘接合部のせん断性能評価と今後の展開	共著	平成26年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2014, 第18回技術発表会	(青木謙治、藤井琢也、 <u>那須秀行</u> 、他)
11) 研究室の紹介 日本工業大学 那須研究室	単著	平成26年09月	木質構造研究会 JTE, Journal of Timber Engineering Vol. 27 No. 5 pp. 161-166 分担執筆	
12) 木造校舎の構造プロトタイプの紹介	共著	平成24年09月	日本建築学会 PD「大規模木造建築の技術的課題と解決方法」	PD 当日の配布資料。 (稲山正弘、腰原幹雄、荒木康弘、 <u>那須秀行</u> 、他 9名)
13) スウェーデンと日本の木質構造技術 コラボレーション	単著	平成22年01月	木質構造研究会 JTE, Journal of Timber Engineering Vol. 23 No. 1 pp. 11-16 分担執筆	
14) 木造軸組工法における柱頭柱脚に入力される引張力	共著	平成15年12月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2003 技術報告集 7 pp. 74-77	(石山央樹、 <u>那須秀行</u>)
15) 品質確保促進法に関する準耐力壁の影響について～石膏ボード準耐力壁の構造性能検証～	共著	平成14年11月	木質構造研究会 Timber Engineering Forum 2002 技術報告集 6 pp. 62-65	(<u>那須秀行</u> 、逢坂達男)
16) 木造住宅の構造性能評価はどこまで可能か	単著	平成13年02月	日本建築学会 建築雑誌 Vol. 116 pp. 81 分担執筆	
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
V 国際会議 (プロシーディング・ 査読あり)				
1) Tensile loading tests steel plated inserted joint with drift pin on CLT	共著	令和元年6月16日 ～19日	CompWood 2019 Conference, Växjö Sweden	CLT 接合部として鋼板挿入に用いるドリフトピンに対し、CLT の端空き距離と縁距離およびドリフトピン径の関係によりどのような機械的な特性を示すのか実験的に検証した研究。 (W. Kambe, H. Nasu, S. Onishi and M. Yoshida)
2) EXPERIMENTAL STUDY WITH WALL PILLAR TYPE OF TIMBER STRUCTURE FOR MID-RISE LARGE SCALE	共著	平成30年08月20日 ～23日	World Conference on Timber Engineering 2018, Seoul, 2018. 8	中層大規模木造建築用に活用できるスペックの壁柱型架構の構築を目的とする研究。併せて、接合部性能を予測する設計式の構築を目指した実験的な研究。 (Masaki Yoshida, Mizuho Yanagisawa, Toshio

(業績書様式第1)

3) STUDY ON STRENGTH DEGRADATION SUPPRESSION OF WOODEN SHEAR WALLS BY DAMPING MATERIALS: THE INFLUENCE OF DIFFERENCES IN CONSTRUCTION CONDITION AND CONSTRUCTION ACCURACY	共著	平成30年08月20日～23日	World Conference on Timber Engineering 2018, Seoul, 2018.8	Kitamura, <u>Hideyuki Nasu</u> 極大地震等に対し木造耐力壁の耐力劣化を抑制すべく制振素材を活用した研究。施工状態の違いによる制振効果のバラツキについて振動台実験および静加力実験により検証した研究。 (Ryouichi Satomi, <u>Hideyuki Nasu</u> , Kiyotaka Terui, Hiroshi Kawase)
4) STUDY ON AN EVALUATION METHOD FOR THE DAMAGE LEVEL WITH CHECKING STRAIN ON WOODEN SHEAR WALL	共著	平成30年08月20日～23日	World Conference on Timber Engineering 2018, Seoul, 2018.8	地震発生時に耐力壁に生じたひずみ履歴を元に建物の層間変形角を予測し、建物のダメージを評価する方法を検討した実験的な研究。 (Daiki Kato, Keita Mori, <u>Hideyuki Nasu</u>)
5) STUDY ON SUPPRESSION EFFECT AGAINST STRUCTURAL PERFORMANCE DEGRADATION OF WOODEN SHEAR WALLS BY USING DAMPING MATERIALS	共著	平成28年08月24日	World Conference on Timber Engineering 2016, Vienna, 2016.8	木造制振耐力壁において制振素材の違い（ゴム系やシリコン）や温度条件（夏と冬）、地震波特性（各種地震波）の違いによる耐力劣化に対する抑制効果を検証したもの。 (<u>Hideyuki Nasu</u> , Masahiko Itou, Takatoshi Yoshida, Kiyotaka Terui, Hiroshi Kawase)
6) STUDY ON SUPPRESSION OF PERFORMANCE DEGRADATION IN BEARING SHEAR WALLS USING DAMPING MATERIALS	共著	平成28年08月24日	World Conference on Timber Engineering 2016, Vienna, 2016.8	木造耐力壁に生じる耐力劣化を抑制すべくブチルゴム等の制振素材を活用、その挙動予測を部分せん断実験による理論式と実大面内せん断実験との比較で検証したもの。 (Rika Arai, <u>Hideyuki Nasu</u>)
7) STUDY ON CONTROL WOODEN JOINT RIGIDITY, STRENGTH AND DUCTILITY WITH COMBINATIONS OF WOODEN FIBRE DIRECTIONS	共著	平成28年08月24日	World Conference on Timber Engineering 2016, Vienna, 2016.8	木材繊維方向の違いによる接合挙動の違いを活用し、そのコンビネーションにより CLT 構法等の接合部において、初期剛性や靱性をコントロールできるかを検証したもの。 (Satoshi Onishi, Yasuteru Karube, <u>Hideyuki Nasu</u>)
8) Study on Compressive Strain of CLT Wall	共著	平成26年08月13日	World Conference on Timber Engineering 2014, ABS140, Quebec, 2014.8	CLT による中高層木造の極大軸力下における壁脚部の潰れとその抑制方法に関する

(業績書様式第1)

bottom under the Extreme Vertical Load				る研究で、実験検証を行った結果報告。発表は那須研究室の院生。 (Satoshi Oonishi, <u>Hideyuki Nasu</u> , Yasuteru Karube, Masahiro Inayama)
9) Study on Dumping Effect of Wooden Bearing Shear Wall	共著	平成26年08月13日	World Conference on Timber Engineering 2014, ABS142, Quebec, 2014.8	ブチルゴムやシリコンコーキング材等の一般的な素材を活用し木造耐力壁に制振効果をもたせ、交通振動による耐力劣化や大地震時の損傷を抑制できるかについて実験を行った結果報告。京都大学との共同研究で、発表は那須研究室の院生。 (Rika Arai, Yuichiro Matsutani, <u>Hideyuki Nasu</u> , Hiroshi Kawase)
10) Study on the Influence of Bearing Shear Wall with Opening	共著	平成26年08月13日	World Conference on Timber Engineering 2014, ABS144, Quebec, 2014.8	スウェーデン式の木造パネル工法において、窓等の開口が及ぼす影響についてその耐力低下度合いや開口位置の影響を実大実験により検証したもの。スウェーデンハウスとの共同研究。 (<u>Hideyuki Nasu</u> , Ryutaro Watanabe, Tatsuya Degura)
11) Study on Prevention for Buckling of Combined Pillar with Fiber Materials or Screws	共著	平成26年08月13日	World Conference on Timber Engineering 2014, ABS168, Quebec, 2014.8	大規模木造の柱を想定し、地場産のやや小径木材をスクリー等で機械的に束ねることで座屈荷重を向上させようと試みたもの。接合具やピッチをパラメータに78体の実験により検証。 (<u>Hideyuki Nasu</u> , Hirokazu Namiki)
12) STUDIES ON TENSILE STRENGTH OF LARGE DIAMETER SCREW BOLTS WITH DIFFERENT SHAPES	共著	平成24年07月16日	World Conference on Timber Engineering 2012 Auckland, New Zealand	木材に大径のスクリーボルトを埋設することで業界世界トップの初期剛性および最大耐力を確保してきたが、本研究では更にスクリー形状に工夫を加えスペックアップを狙い試作と実験を行った。その結果報告。 (<u>Hideyuki Nasu</u> , Masahiko Katabami, Toru Katagiri, Hiroyuki Noguchi)
13) INTRODUCTION OF A NEW BUILDING SYSTEM IN EUROPE, BIG FRAM, RESULTS AND CONCLUSIONS	共著	平成24年07月19日	World Conference on Timber Engineering 2012 Auckland, New Zealand	スウェーデンとの共同研究で、耐力壁を必要としない柱梁による新しい木質ラーメン構造技術を欧州で活用すべく、各種試設計を行い試験棟建設や工場生産システムの検証について報告。

(業績書様式第1)

				(Anders Gustafsson, Hideyuki Nasu, Olle Hagman)
14) First building outside Japan with BIG FRAME system	共著	平成21年12月	SP Technical Research Institute of Sweden Technical Report	欧州におけるポスト&ビームの可能性を見るためSP技術研究所と住友林業の共同研究報告。 柱梁の接合部に特徴がありブレースや耐力壁なしでも大きな開口を提供でき、日本以外で初めてスウェーデンで実棟を建て研究が進められたこと。 担当：技術供与、プロジェクト遂行 (Anders Gustafsson, Hideyuki Nasu)
15) Första huset med BIG FRAME i Sverige	共著	平成21年02月	SP Technical Research Institute of Sweden Nordisk Träteknik SÅG & TRÄ	この国際共同研究プロジェクトの概要、内容および研究成果を発表したもの。 2007年より始めたスウェーデンと日本の共同研究で、耐力壁を必要としない柱梁による新しい木質ラーメン構造技術を欧州で活用すべく各種実験に取り組んできたこと、その技術検証と実用化を目的とし大学の学生寮の建設を進めていることを報告。 担当：技術供与、プロジェクト遂行 (Anders Gustafsson, Hideyuki Nasu)
16) Behavior of tensile strength and displacement concerning Big Screw Joint with Cross Laminated Panel	共著	平成20年06月	10 th World Conference on Timber Engineering pp. 124-131	建築法規上、日本では認められていないが、欧州で利用が先行しているCL-T(クロスラミネーテッドティンバー)を用いて大径ボルト接合の引張実験を実施。 木材の繊維並行方向と直交方向を組み合わせることで接合部の剛性と靱性の両得およびそのコントロールを目指した研究。国際学会WCTE2008で発表。 担当：研究企画、実験実施、考察 (Keiich Tsubouch, Hideyuki Nasu, Hiroyuki Noguchi, Göran Forsberg, Anders Gustafsson and Carl-Johan Johansson)

(業績書様式第1)

17) Shear Loading Test for Big Frame Construction method	共著	平成20年03月	SP Technical Research Institute of Sweden Technical Report	日本の Big Frame 構造を欧州に適用させる研究。欧州仕様にしたフレームで面内せん断実験を実施。材料として通常の集成材によるせん断実験の他、CL-T板でも実施。フレーム架構としての挙動を検証。 担当：研究企画、実験実施、考察 (Takashi Suyama, <u>Hideyuki Nasu</u>)
18) Trähus för jordbävningsområden	共著	平成20年02月	SP Technical Research Institute of Sweden Technical Report	地震発生のメカニズム、耐震設計の考え方を解説。また、日本の耐震建築の事例として Big Frame 構法についても解説。一方、新潟中越地震を中心に地震直後に現地撮影した写真を用いて地震被害例を数多く紹介している。 担当：震災情報収集と提供、日本の耐震設計法の解説 (Anna Pousette, Anders Gustafsson, <u>Hideyuki Nasu</u>)
19) Pull loading test of joint instrument of Big Frame system in Sweden	共著	平成19年09月	SP Technical Research Institute of Sweden Technical Report	Big Frame 技術を応用し欧州仕様を研究開発すべく現地にて接合部の引張実験を実施。通常の集成材のみならず、欧州の CL-T 板についても実験。通常、木材は脆性破壊するが、CL-T 板を用い木材自体で架構の剛性と靱性を任意コントロールができないかという研究。 担当：研究企画、実験実施、考察 (Keiich Tsubouch, <u>Hideyuki Nasu</u>)

(業績書様式第1)

20) Ett japanskt byggsystem i trä för höghusbyggande	共著	平成19年05月	IUC convention	木質構造・材料に関する国際学会での発表（開催国スウェーデン）。日本の一般的な木造住宅の建築技術を紹介、併せてオリジナルで研究開発した新構法を発表。スウェーデンと進める新しい木造プロジェクトについても発表。 担当：日本の木造建築技術の紹介、プロジェクト遂行（ <u>Hideyuki Nasu</u> , Anders Gustafsson）
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
VI 国際会議 (プロシーディング・ 査読なし)				
1) Timber engineering and bio-based building materials and systems	共著	平成29年11月	Sweden-Japan 150 Anniversary Grants スウェーデンと日本の国交 150周年記念事業	Magnus Wålinder、Roberto Crocetti、 <u>Hideyuki Nasu</u>
2) Examples of Japanese wooden bridges and Japanese wooden structures	単独	平成29年06月	3 rd ICTB International Conference on Timber Bridges, Skellefteå Sweden	International Scientific Committee として基調講演をおこなった。
3) Innovative construction techniques for tall wood buildings	共著	平成25年04月	4 th Joint Call for Research and Development Proposals Wood Wisdom-Net Research Programme	スウェーデンでの高層木造建築プロジェクト
4) Development of multi-storey post and beam structure for Japan and Europe	単著	平成21年10月	日本大使館 & ウィーン工科大学	日澳交流 140 周年記念会議
5) オーストリアチロル州でのBig Frameによる実棟建設プロジェクト	共著	平成20年04月～ 平成21年10月	オーストリアの住宅公団、 建築事務所、コントラクター とコラボ	インスブルックの住宅公団 NHT チロルへの技術供与
6) Big Frame構造によるLureå工科大の学生寮プロト建設	共著	平成20年04月～ 平成21年10月	王立SP技術研究所 Västerbotten県 Skelleftea市	SP技術研究所、Swedenの大学 (Lureå, Umeå大) 実業界との共同研究プロジェクト
7) Big Frame	単著	平成20年02月	Träbyggnadsstrategin,	Seminarium inom

(業績書様式第1)

8) EU - Japan 建築木材専門家会議	共著	平成19年09月	Bygg stort ベルギー ブリュッセル EU 本部	Nationella 講演 日本側代表団の木質構造専門家として参加
9) スウェーデン王立 SP 技術研究所との 共同研究プロジェクト	共著	平成19年04月～ 平成21年10月	スウェーデン王立SP技術研究所での共同研究開始	多層木質構造技術に関する技術供与および共同研究のためスウェーデンより招聘されたもの
10) イタリア式木造3 階建実大振動台実験	共著	平成18年01月～ 平成18年07月	於防災研究所 研究協力メンバー	イタリア政府プロジェクト
11) 木質梁勝ちラーメン 構造技術と実例	単著	平成17年11月	オーストリア大使館	投資部会議
12) Big Frame Construction	共著	平成17年04月～ 平成18年03月	オーストラリア連邦政府	産業科学機構への技術協力
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
Ⅶ その他 Ⅶ-1 口頭発表				
1) 非住宅の大規模木造を対象とした壁柱構法の実験的研究 接合部の割裂破壊に対する木質構造用ねじの補強効果	共著	令和02年09月	日本建築学会大会 2020 (関東) 講演番号22066	金内馨、吉田将宜、柳澤瑞穂、加藤大喜、大西郷、 <u>那須秀行</u>
2) 枠組壁工法耐力壁の上枠継手接合部の性能に関する研究	共著	令和02年09月	日本建築学会大会 2020 (関東) 講演番号22067	新井里佳、松尾和午、大橋修、 <u>那須 秀行</u>
3) 木質構造用ねじのJIS 制定に向けた試験方法に関する研究 3点曲げ及び掴み曲げによる繰り返し試験方法の検証	共著	令和02年09月	日本建築学会大会 2020 (関東) 講演番号22074	荻部泰輝、中里匡陽、小林研治、 <u>那須 秀行</u>
4) 小幅 CLT を用いた木造在来構法用の耐力壁の開発 CLT 壁脚部の集合破壊を抑制する HD 金物の開発	共著	令和02年09月	日本建築学会大会 2020 (関東) 講演番号22122	大西郷、 <u>那須 秀行</u>
5) 制振素材を用いた木造住宅の耐力劣化抑制に関する研	共著	令和02年09月	日本建築学会大会 2020 (関東) 講演番号22125	川嶋貴生、加藤大喜、照井清貴、大西郷、 <u>那須 秀行</u>

(業績書様式第1)

究 石膏ボード準耐力壁に対する制振テープの効果				
6) 国産の枠組材と合板を用いた高強度耐力壁の開発 その3 タイロッド式面内せん断試験による検証	共著	令和02年09月	日本建築学会大会2020 (関東) 講演番号22126	加藤大喜、青木謙治、河原大、 <u>那須 秀行</u>
7) スウェーデン式枠組壁工法における摩擦系制振壁の開発 繰返される中地震が制振耐力壁の構造性能に及ぼす影響について	共著	令和02年09月	日本建築学会大会2020 (関東) 講演番号22233	山崎歩*、齊藤義克、大西郷、 <u>那須 秀行</u>
8) 非住宅の大規模木造を対象とした壁柱構法の実験的研究 - 接合部の割裂破壊に対する木質構造用ねじの補強効果 -	共著	令和02年03月	日本建築学会 関東支部研究報告集2020 構造V 講演番号2041	金内馨、加藤大喜、吉田将宜、柳澤瑞穂、 <u>那須秀行</u>
9) 制振素材を用いた木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究 - 実仕様の石膏ボード準耐力壁に対する制振テープの効果について -	共著	平成31年03月	日本建築学会 関東支部研究報告集2020 構造V 講演番号2042	川嶋貴生、加藤大喜、照井清貴、 <u>那須秀行</u>
10) 木質構造用ねじのJIS 制定に向けた試験方法に関する研究 その1 JIS 制定に向けた試験方法の確立に向けての検証	共著	令和元年09月	日本建築学会大会2019 (北陸) 講演番号22055	苅部泰輝、小林研治、 <u>那須秀行</u>
11) CLT を対象とした鋼板挿入型接合部の引張試験 その1 試験概要及び試験結果	共著	令和元年09月	日本建築学会大会2019 (北陸) 講演番号22070	大西郷、神戸渡、岡田忠義、 <u>那須秀行</u>
12) CLT を対象とした鋼板挿入型接合部の引張試験 その2 比較と考察	共著	令和元年09月	日本建築学会大会2019 (北陸) 講演番号22071	神戸渡、大西郷、岡田忠義、 <u>那須秀行</u>
13) 国産の枠組材と合板を用いた高強度耐力壁の開発 その1 釘の一面せん断試験による耐力	共著	令和元年09月	日本建築学会大会2019 (北陸) 講演番号22109	青木謙治、加藤大喜、河原大、 <u>那須秀行</u>

(業績書様式第1)

壁のモデル化

14) 国産の枠組材と合板を用いた高強度耐力壁の開発 その2 面内せん断試験による耐力壁の検証	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22110	加藤大喜、青木謙治、河原大、 <u>那須秀行</u>
15) 規格製材と LVL ガセットによる合わせ格子フレーム構法の開発 その1: 計画概要	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22142	中西規夫、ジロン・ニコラ、松尾和午、新井里佳、杉本健一、 <u>那須秀行</u>
16) 規格製材と LVL ガセットによる合わせ格子フレーム構法の開発 その2: 設計概要	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22143	ジロン・ニコラ、松尾和午、新井里佳、杉本健一、 <u>那須秀行</u> 、中西規夫
17) 規格製材と LVL ガセットによる合わせ格子フレーム構法の開発 その3: 二面せん断接合の開発	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22144	松尾和午、新井里佳、杉本健一、 <u>那須秀行</u> 、中西規夫、ジロン・ニコラ
18) 規格製材と LVL ガセットによる合わせ格子フレーム構法の開発 その4: 接合部の構造性能について	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22145	新井里佳、杉本健一、 <u>那須秀行</u> 、中西規夫、ジロン・ニコラ、松尾和午
19) 規格製材と LVL ガセットによる合わせ格子フレーム構法の開発 その5: 実大格子フレームの曲げ試験	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22146	杉本健、 <u>那須秀行</u> 、中西規夫、ジロン・ニコラ、松尾和午、新井里佳、戸田淳二、野田康信
20) 規格製材と LVL ガセットによる合わせ格子フレーム構法の開発 その6: 実スパンでのクリープ実験による増大係数の算定	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22147	<u>那須秀行</u> 、中西規夫、ジロン・ニコラ、松尾和午、新井里佳、杉本健一
21) 中層大規模木造を対象とした壁柱構法の実験的研究 その5 脆性的な割裂破壊の抑制手法	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22174	吉田将宜、柳澤瑞穂、北村俊夫、 <u>那須秀行</u>
22) 枠組壁工法へのシアリンク式摩擦ダ	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸)	齊藤義克、里見凌一、後藤尚哉、 <u>那須秀行</u>

(業績書様式第1)

			講演番号22225	
				ンパー適用に向けた研究 その1 静加力実験での検証
23)	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22226	里見凌一、齊藤義克、後藤尚哉、 <u>那須秀行</u>
24)	共著	令和元年09月	日本建築学会大会 2019 (北陸) 講演番号22227	後藤尚哉、齊藤義克、里見凌一、 <u>那須秀行</u>
25)	共著	平成31年03月	日本建築学会 関東支部研究報告集2018 講演番号2001	大西郷、馬場己昌、吉田将宜、神戸渡、 <u>那須秀行</u>
26)	共著	平成31年03月	日本建築学会 関東支部研究報告集2018 講演番号2002	馬場己昌、大西郷、吉田将宜、神戸渡、 <u>那須秀行</u>
27)	共著	平成31年03月	日本建築学会 関東支部研究報告集2018 講演番号2003	吉田将宜、柳澤瑞穂、北村俊夫、 <u>那須秀行</u>
28)	共著	平成31年03月	日本建築学会 関東支部研究報告集2018 講演番号2004	松本翔太、里見凌一、 <u>那須秀行</u>
29)	共著	平成31年03月	日本建築学会 関東支部研究報告集2018 講演番号2005	加藤大喜、河原大、青木謙治、 <u>那須秀行</u>
30)	共著	平成30年09月	日本建築学会大会 2018 (東北) 講演番号22038	里見凌一、後藤尚哉、齊藤義克、 <u>那須秀行</u>
31)	共著	平成30年09月	日本建築学会大会 2018 (東北) 講演番号22156	吉田将宜、柳澤瑞穂、北村俊夫、 <u>那須秀行</u>
32)	共著	平成30年09月	日本建築学会大会 2018 (東北) 講演番号22157	柳澤瑞穂、吉田将宜、北村俊夫、 <u>那須秀行</u>

(業績書様式第1)

その4 柱脚接合部の面内曲げ試験				
33) CLT 壁脚部における長ビス打ち込みが及ぼす座屈性状に関する研究 ～長ビス補強とフィンガージョイントの影響による挙動の違い～	共著	平成30年09月	日本建築学会大会 2018 (東北) 講演番号22158	吉田啓一郎、大西郷、苅部泰輝、 <u>那須秀行</u>
34) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究 その8 倒壊解析シミュレーション	共著	平成30年09月	日本建築学会大会 2018 (東北) 講演番号22226	柳原直也、里見凌一、 <u>那須秀行</u> 、北守顕久、川瀬博、照井清貴
35) 木造面材耐力壁に用いる損傷度合の評価方法に関する研究	共著	平成30年09月	日本建築学会大会 2018 (東北) 講演番号22236	加藤大喜、里見凌一、 <u>那須秀行</u>
36) 木材繊維方向の組合せによるビス接合部の剛性および靱性の制御に関する研究 ～木質構造用ビスの先端形状・ビス径・プレタップが引抜き性能に及ぼす影響～	共著	平成30年09月	日本建築学会大会 2018 (東北) 講演番号22284	二葉光介、大西郷、苅部泰輝、 <u>那須秀行</u>
37) CLT 梁の繊維の組み合わせ接着効果の研究	共著	平成29年09月	日本建築学会大会 2017 (中国) 講演番号22087	大西郷、 <u>那須秀行</u>
38) 合わせ柱の性能確認試験 ビス・ボルト・接着剤を用いることによる効果	共著	平成29年09月	日本建築学会大会 講演番号22090	吉田啓一郎、苅部泰輝、門馬寛之、手塚慎一、三輪啓樹、 <u>那須秀行</u>
39) 構造用合板による高耐力構面の開発と応用	共著	平成29年09月	日本建築学会大会 講演番号22117	遠藤清一、稲山正弘、小林研治、 <u>那須秀行</u>
40) 面材耐力壁に用いる損傷度合の評価方法に関する研究	共著	平成29年09月	日本建築学会大会 講演番号22125	森溪太、柳原直也、里見凌一、 <u>那須秀行</u>
41) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制効果に関する研究 その6 ゴム系素材の制振効果	共著	平成29年09月	日本建築学会大会 講演番号22137	柳原直也、里見凌一、 <u>那須秀行</u> 、川瀬博、北守顕久、森拓郎、照井清貴
42) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制効果に関する		平成29年09月	日本建築学会大会 講演番号22138	里見凌一、柳原直也、 <u>那須秀行</u> 、川瀬博、北守顕久、森拓郎、照井清貴

(業績書様式第1)

研究 その7 施工状態の違い、施工精度の違いによる影響				
43) CLT 接合部における端距離及び埋め込み深さが LSB の引抜き性能に及ぼす影響	共著	平成29年08月	日本建築学会大会 講演番号22020	二葉光介、大西郷、鈴木圭、 <u>那須秀行</u>
44) 中層大規模木造を対象とした壁柱構法の実験的研究 その1 構法概要および接合部引張実験	共著	平成29年08月	日本建築学会大会 講演番号22196	柳澤瑞穂、吉田将宜、北村俊夫、大西郷、 <u>那須秀行</u>
45) 中層大規模木造を対象とした壁柱構法の実験的研究 その2 接合部引張実験の考察	共著	平成29年08月	日本建築学会大会 講演番号22197	吉田将宜、柳澤瑞穂、北村俊夫、大西郷、 <u>那須秀行</u>
46) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究 -ゴム系素材を用いた制振効果-	共著	平成29年02月	日本建築学会 関東支部研究報告集2016 講演番号2216	柳原直也、里見凌一、森拓郎、北守顕久、川瀬博、 <u>那須秀行</u>
47) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究 - 施工の手段と精度の違いが及ぼす制振耐力壁への影響 -	共著	平成29年02月	日本建築学会 関東支部研究報告集2016 講演番号2217	里見凌一、柳原直也、森拓郎、北守顕久、川瀬博、 <u>那須秀行</u>
48) 集成材壁柱構法の開発 ~接合部引張実験~	共著	平成29年02月	日本建築学会 関東支部研究報告集2016 講演番号2220	吉田将宜、北村俊夫、柳澤瑞穂、大西郷、 <u>那須秀行</u>
49) 面材耐力壁に用いる損傷度合の評価方法に関する研究	共著	平成29年02月	日本建築学会 関東支部研究報告集2016 講演番号2221	森溪太、柳原直也、 <u>那須秀行</u>
50) 構造用ビスの引抜き耐力に打込み間隔が及ぼす影響	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 (九州) 講演番号22015	並木淳史、苅部泰輝、 <u>那須秀行</u>
51) CLT による構造の設計法検討のための実大振動台実験 その23 試験体Cの破壊性状	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22106	清水秀丸、大西郷、柳原直也、吉田啓一郎、石山央樹、 <u>那須秀行</u>
52) CLT による構造の設計法検討のための実大震動台実験	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22107	西村壽晃、石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、林崎正伸、清水秀丸、槌本敬大

(業績書様式第1)

その24 試験体Dの破壊性状				
53) CLTによる構造の設計法検討のための実大震動台実験 その25 試験体Eの破壊性状	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22108	横井大誠、石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、清水秀丸、林崎正伸、三宅辰哉
54) 長ビスを用いたCLT 壁脚部の座屈耐力上昇に関する研究	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22122	吉田啓一郎、大西郷、苅部泰輝、 <u>那須秀行</u>
55) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究 その4 素材の違いによる影響について	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22132	柳原直也、伊東柁彦、 <u>那須秀行</u> 、川瀬博、北守顕久、森拓郎、五十田博、照井清貴
56) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究 その5 温度の違い、地震波の違いによる影響について	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22133	伊東柁彦、柳原直也、 <u>那須秀行</u> 、川瀬博、北守顕久、森拓郎、五十田博、照井清貴
57) 在来木造住宅の外張り断熱工法が外壁の耐震性能に及ぼす影響に関する研究 その1 試験体概要および実験概要	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22240	大塚弘樹、渡辺貴樹、吉田将宜、大西郷、伊東柁彦、飯田秀年、鶴林雅代、 <u>那須秀行</u>
58) 在来木造住宅の外張り断熱工法が外壁の耐震性能に及ぼす影響に関する研究 その2 重ね張り効果、ビスの増打ち効果（前期仕様）	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22241	渡辺貴樹、大塚弘樹、吉田将宜、大西郷、伊東柁彦、飯田秀年、鶴林雅代、 <u>那須秀行</u>
59) 在来木造住宅の外張り断熱工法が外壁の耐震性能に及ぼす影響に関する研究 その3 各構成部材が許容水平耐力に与える影響（後期仕様）	共著	平成28年08月	日本建築学会大会 2016 講演番号22242	吉田将宜、大塚弘樹、渡辺貴樹、大西郷、伊東柁彦、飯田秀年、鶴林雅代、 <u>那須秀行</u>
60) 木材繊維方向の組み合わせにより接合部の特性を制御する研究 実験による接合特性の推	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015（関東） 講演番号22016	苅部泰輝、大西郷、 <u>那須秀行</u>

(業績書様式第1)

測および特性変化 の関係式の提唱				
61) デジタル画像相関 法を用いた木材の 割裂性状に関する 研究	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22031	並木博一、 <u>那須秀行</u>
62) 一面せん断試験お よび面材釘の試験 による OSB-釘接合 部のせん断性能比 較	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22041	青木謙治、 <u>那須秀行</u> 、杉本 健一
63) 長ビスを用いた CLT 接合部のせん 断性能に関する研 究【その3】打込み 角度と端空き距離 の影響について	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22055	並木淳史、大西郷、荻部泰 輝、 <u>那須秀行</u>
64) スウェーデン式木 質壁パネル工法の 特性に関する研究 -フレーム接合部に 全ネジを用いた影 響について-	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22143	出蔵達也、水川あみ、渡邊 隆太郎、 <u>那須秀行</u>
65) スウェーデン式木 質壁パネル工法の 特性に関する研究 -木製サッシおよび その補強が及ぼす 影響について-	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22144	水川あみ、出蔵達也、渡邊 隆太郎、 <u>那須秀行</u>
66) スウェーデン式木 質壁パネル工法の 特性に関する研究 - 耐力要素の加算 則について -	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22145	渡邊隆太郎、出蔵達也、水 川あみ、 <u>那須秀行</u>
67) 木造耐力壁の制振 効果に関する研究 その3 制振素材を 用いた耐力壁のせん 断耐力算定式に 関する検証	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22148	新井里佳、 <u>那須秀行</u>
68) 制振素材による木 造住宅の耐力劣化 抑制に関する研究 その1 試験体概要 および実験概要	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22149	<u>那須秀行</u> 、吉田貴俊、伊東 柁彦、新井里佳、川瀬 博、 照井清貴
69) 制振素材による木 造住宅の耐力劣化 抑制に関する研究 その2 振動台実験	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22150	吉田貴俊、伊東柁彦、新井 里佳、 <u>那須秀行</u> 、川瀬博、 照井清貴

(業績書様式第1)

70) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究その3 静加力実験	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22151	伊東柁彦、吉田貴俊、新井里佳、 <u>那須秀行</u> 、川瀬博、照井清貴
71) CLTによる構造の設計法検討のための実大震動台実験その8 試験体Aの破壊性状(動画+各加振の全体荷重変形関係)	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22183	清水秀丸、三宅辰哉、 <u>那須秀行</u> 、石山央樹、中谷浩之、佐藤基志
72) CLTによる構造の設計法検討のための実大震動台実験その9 試験体Bの全体挙動	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22184	林崎正伸、和田真美、清水秀丸、中谷浩行、石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、三宅辰哉、五十田博
73) CLTによる構造の設計法検討のための実大震動台実験その10 試験体Aの各部の損傷	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22185	大西郷、伊東柁彦、並木淳史、石山央樹、三宅辰哉、 <u>那須秀行</u>
74) CLTによる構造の設計法検討のための実大震動台実験その11 試験体Bの各部の損傷	共著	平成27年09月	日本建築学会大会 2015 講演番号 22186	青山剛、和田真美、清水秀丸、 <u>那須秀行</u> 、石山央樹、三宅辰哉、五十田博
75) 長ビスを用いたCLT接合部のせん断性能に関する研究【その1】実験概要と試験体説明	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014(神戸) 講演番号 22249	<u>那須秀行</u> 、大西郷、荻部泰輝
76) 長ビスを用いたCLT接合部のせん断性能に関する研究【その2】実験結果と考察、結論	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22250	大西郷、 <u>那須秀行</u> 、荻部泰輝
77) 木造耐力壁の制振効果に関する研究その2 多数回繰り返し加力時の耐力劣化抑制に関する検証	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22009	新井里佳、伊東柁彦、 <u>那須秀行</u>
78) 耐力壁に設備孔と石膏ボードを有した際の影響について【その1】実験概要と予測	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22019	出蔵達也、渡邊隆太郎、齊藤義克、 <u>那須秀行</u>

(業績書様式第1)

79) 耐力壁に設備孔と石膏ボードを有した際の影響について【その2】実験結果と考察、結論	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22020	渡邊隆太郎、出蔵達也、齊藤義克、 <u>那須秀行</u>
80) 交通振動が木造耐力壁に及ぼす影響について	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22023	伊東柁彦、新井里佳、 <u>那須秀行</u>
81) クロス・ラミネイテッド・ティンバーによる構造の設計法に関する研究 その9 L型・T型パネル水平加力実験 その1:T型の実験	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22098	並木博一、新井里佳、 <u>那須秀行</u> 、中島昌一、弥浦壮太、北守顕久、五十田博
82) クロス・ラミネイテッド・ティンバーによる構造の設計法に関する研究 その10 L形・T形パネル水平加力実験 その2:L形の実験	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22099	和田真美、弥浦壮太、中島昌一、北守顕久、三宅辰哉、 <u>那須秀行</u> 、五十田博
83) ドリフトピン接合部におけるビス補強効果について	共著	平成26年09月	日本建築学会大会 2014 講演番号 22200	並木淳史、苅部泰輝、 <u>那須秀行</u> 、稲山正弘
84) クロス・ラミネイテッド・ティンバーによる構造の耐震性能に関する研究 その14 3層実大モデル試験体の静的加力による接合部の変形と破壊挙動	共著	平成25年08月	日本建築学会大会 2013 (北海道) 講演番号 22281	<u>那須秀行</u> 、弥浦壮太、村上了、五十田博、槌本敬大、三宅辰哉、安村基
85) 長ビスを用いたCLT接合部に関する研究	共著	平成25年08月	日本建築学会大会 2013 講演番号 22011	チェヒョン Chol、 <u>那須秀行</u> 、苅部泰輝、稲山正弘
86) ビス等を用いた柱の座屈防止に関する研究	共著	平成25年09月	日本建築学会大会 2013 講演番号 22044	並木博一、 <u>那須秀行</u>
87) 開口及び開口位置が耐力に及ぼす影響についての研究 その1 実験概要と予測	共著	平成25年08月	日本建築学会大会 2013 講演番号 22121	出蔵達也、渡邊隆太郎、齊藤義克、 <u>那須秀行</u>
88) 開口及び開口位置が耐力に及ぼす影響についての研究 その2 実験結果と考察、結論	共著	平成25年08月	日本建築学会大会 2013 講演番号 22122	渡邊隆太郎、出蔵達也、齊藤義克、 <u>那須秀行</u>

(業績書様式第1)

89) 木造耐力壁の制振効果に関する研究 その1 小試験体と耐力壁の静加力実験	共著	平成25年08月	日本建築学会大会 2013 講演番号 22132	新井里佳、松谷雄一郎、 <u>那須秀行</u>
90) 極大鉛直力によるCLT壁脚部の潰れに関する研究	共著	平成25年08月	日本建築学会大会 2013 講演番号 22288	大西郷、 <u>那須秀行</u> 、荻部泰輝、稲山正弘
91) 大径ボルトを用いたCLT接合部に関する研究 その1 実験目的・概要	共著	平成24年09月	日本建築学会大会 2012 (東海) 講演番号 22286	<u>那須秀行</u> 、チェヒョン Chol、方波見雅彦、野口弘行
92) 大径ボルトを用いたCLT接合部に関する研究 その2 実験結果・考察	共著	平成24年09月	日本建築学会大会 2012 講演番号 22287	チェヒョン Chol、 <u>那須秀行</u> 、方波見雅彦、野口弘行
93) 大径ボルト接合の木材繊維方向による力学的挙動に関する研究	共著	平成24年09月	日本建築学会大会 2012 講演番号 22285	方波見雅彦、野口弘行、 <u>那須秀行</u> 、内山善明、チェヒョン Chol
94) 大径ボルト羽形状による引張接合性能に関する研究 ～その1 実験目的・概要～	共著	平成23年09月	日本建築学会大会 2011 (関東) 講演番号 22168	<u>那須秀行</u> 、方波見雅彦、野口弘行
95) 大径ボルト羽形状による引張接合性能に関する研究 ～その2 実験結果・考察～	共著	平成23年09月	日本建築学会大会 2011 講演番号 22169	方波見雅彦、 <u>那須秀行</u> 、野口弘行
96) 全ねじボルト埋め込み接着接合部の基本性状に関する研究 ～その10 曲げモーメントとせん断力が同時に作用する接合部の歪分布～	共著	平成23年09月	日本建築学会大会 2011 講演番号 22183	金井健徳、野口弘行、 <u>那須秀行</u> 、本岡淳一、深澤大樹
97) 全ねじボルト埋め込み接着接合部の基本性状に関する研究 -その7 曲げとせん断が同時に作用する接合部の耐力と破壊性状-	共著	平成22年09月	日本建築学会大会 2010 (北陸) 講演番号 22052	金井健徳、野口弘行、 <u>那須秀行</u> 、本岡淳一、岩崎誠司、深澤大樹
98) 木質構造教育に関する委員会活動とその成果報告	共著	平成21年08月	日本建築学会大会 2009 (東北) 講演番号 22202	青木謙治、 <u>那須秀行</u> 、野口弘行

(業績書様式第1)

99) 大径ボルト接合と接着全ネジボルト接合におけるせん断負担面積と引張耐力の比較	共著	平成21年08月	日本建築学会大会 2009 講演番号 22057	那須秀行、坪内啓一、Anders Gustafsson、野口弘行
100) Experimental Study for Big Screw Joint with Cross Laminated Panel Part 1 Summary and Experiment 1	共著	平成20年09月	日本建築学会大会 2008 (中国) 講演番号 22192	Hideyuki Nasu、Keiichi Tsubouchi、Anders Gustafsson、Hiroyuki Noguchi
101) Experimental Study for Big Screw Joint with Cross Laminated Panel Part 2 Experiment 2 and Conclusion	共著	平成20年09月	日本建築学会大会 2008 講演番号 22193	Keiichi Tsubouchi、Hideyuki Nasu、Anders Gustafsson、Hiroyuki Noguchi
102) 異方向集成材を用いた大径ボルト接合部の実験的研究	共著	平成19年09月	日本建築学会大会 2007 (九州) 講演番号 22033	坪内啓一、那須秀行、野口弘行
103) 大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その6】実大3層立体フレームの振動大実験～実験概要と最大応答値～	共著	平成18年09月	日本建築学会大会 2006 (関東) 講演番号 22082	那須秀行、石山央樹、山本徳人、高岡繭子、三宅辰哉、野口弘行
104) 大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その7】実大3層立体フレームの振動大実験～構造性能と補修の有効性～	共著	平成18年09月	日本建築学会大会 2006 講演番号 22083	石山央樹、那須秀行、山本徳人、高岡繭子、三宅辰哉、野口弘行
105) 大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その8】実大3層立体フレームの振動台実験～評価とまとめ～	共著	平成18年09月	日本建築学会大会 2006 講演番号 22084	山本徳人、那須秀行、石山央樹、高岡繭子、三宅辰哉、野口弘行
106) 大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その1】構法概要	共著	平成17年09月	日本建築学会大会 2005 (近畿) 講演番号 22089	那須秀行、石山央樹、三宅辰哉、山本徳人、高岡繭子、野口弘行
107) 大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その	共著	平成17年09月	日本建築学会大会 2005 講演番号 22090	石山央樹、那須秀行、三宅辰哉、山本徳人、高岡繭子、野口弘行

(業績書様式第1)

2】接合部実験

108)	大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その3】構面実験と弾塑性挙動予測	共著	平成17年09月	日本建築学会大会 2005 講演番号 22091	山本徳人、高岡繭子、三宅辰哉、 <u>那須秀行</u> 、石山央樹、野口弘行
109)	大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その4】実大3層立体フレーム水平加力実験	共著	平成17年09月	日本建築学会大会 2005 講演番号 22092	高岡繭子、山本徳人、三宅辰哉、 <u>那須秀行</u> 、石山央樹、野口弘行
110)	大径ボルトを用いた木質ラーメン構造の開発【その5】総括	共著	平成17年09月	日本建築学会大会 2005 講演番号 22093	野口弘行、 <u>那須秀行</u> 、石山央樹、山本徳人、高岡繭子、三宅辰哉
111)	木造軸組工法における柱頭柱脚に入力される引張力(その1)柱のロッキングの影響、面材・筋かい金物の拘束効果	共著	平成16年08月	日本建築学会大会 2004(北海道) 講演番号 22177	<u>那須秀行</u> 、石山央樹、野口弘行
112)	木造軸組工法における柱頭柱脚に入力される引張力(その2)実物大実験への適用	共著	平成16年08月	日本建築学会大会 2004 講演番号 22178	石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、野口弘行
113)	特殊大径ボルトによる木材への定着に関する実験的研究～繊維方向・長さ及び樹種による影響～	共著	平成16年08月	日本建築学会大会 2004 講演番号 22158	浦上瑞穂、 <u>那須秀行</u> 、岩崎誠司、野口弘行
114)	木造軸組工法における構造仕様の違いについて(その1)通し柱と管柱、面材耐力壁と筋かい耐力壁の構造性能比較	共著	平成15年09月	日本建築学会大会 2003(東海) 講演番号 22178	<u>那須秀行</u> 、石山央樹、塩沢伸明、野口弘行
115)	木造軸組工法における構造仕様の違いについて(その2)柱頭柱脚に入力される引張力	共著	平成15年09月	日本建築学会大会 2003 講演番号 22179	石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、塩沢伸明、野口弘行
116)	在来軸組工法木造住宅の構造設計手法の開発 その67 柱脚柱頭接	共著	平成15年09月	日本建築学会大会 2003 講演番号 22144	稲山正弘、村上雅英、 <u>那須秀行</u> 、石山央樹

(業績書様式第1)

合部軸力一般解の 立体建物への適用 方法と検証					
117)	在来軸組工法 木造住宅の構造設 計手法の開発 その 68 下屋付2階 建の柱脚柱頭接合 部軸力の計算およ び実大実験との比 較	共著	平成15年09月	日本建築学会大会 2003 講演番号 22145	佐藤俊平、 <u>那須秀行</u> 、稲山正 弘、石山央樹、村上雅英
118)	面材耐力壁を 用いた木造軸組工 法住宅の実大静加 力実験 その1 実 験概要および筋交 い構法との比較	共著	平成14年08月	日本建築学会大会 2002 (北陸) 講演番号 22055	<u>那須秀行</u> 、町田健一、塩沢伸 明、石山央樹、大橋好光
119)	面材耐力壁を 用いた木造軸組工 法住宅の実大静加 力実験 その2 壁 の加算則の検証	共著	平成14年08月	日本建築学会大会 2002 講演番号 22056	塩沢伸明、 <u>那須秀行</u> 、町田健 一、石山央樹、大橋好光
120)	面材耐力壁を 用いた木造軸組工 法住宅の実大静加 力実験 その3 柱 頭柱脚に入力され る引張力	共著	平成14年08月	日本建築学会大会 2002 講演番号 22057	石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、町田健 一、塩沢伸明、大橋好光
121)	木造住宅にお ける不同沈下の影 響に関する研究 そ の2 部分実験およ び解析による検証	共著	平成13年09月	日本建築学会大会 2001 (関東) 講演番号 22070	<u>那須秀行</u> 、日吉利昌、野口弘 行
122)	穴あきPC板 を用いた耐力壁構 法の開発 その1 耐震性能の実験的 検討	共著	平成11年09月	日本建築学会大会 1999 (中国) 講演番号 23202	<u>那須秀行</u> 、桐山伸一、三宅辰 哉、飯田秀年、香取慶一、林 静雄
123)	穴あきPC板 を用いた耐力壁構 法の開発 その2 耐震性能の解析的 検討	共著	平成11年09月	日本建築学会大会 1999 講演番号 23203	飯田秀年、 <u>那須秀行</u> 、桐山伸 一、三宅辰哉、香取慶一、林 静雄
124)	木質ダイアフ ラムの研究(3) ~ 軸組とパネルで構成 された床ダイアフ ラムの水平力に対 する挙動分析	共著	平成04年08月	日本建築学会大会 1992 (北陸) 講演番号 2964	<u>那須秀行</u> 、黒岩保彦、野口弘 行、鈴木秀三、神谷文夫、杉 本健一

(業績書様式第1)

125) 木質ダイヤフラムの水平力に対する挙動の弾塑性的解析	共著	平成01年10月	日本建築学会大会 1989 (九州) 講演番号 2774	那須秀行、野口弘行
126) 木質有開口ダイヤフラムの水平力に対する挙動の解析	共著	昭和63年10月	日本建築学会大会 1988 (関東) 講演番号 2745	野口弘行、 <u>那須秀行</u>
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
VII-2 雑誌・学内報告				
1) 2020年度「木造建築工房」実施概要と学生の学び	共著	令和02年12月	日本工業大学研究報告 第50巻第3号, pp. 未(投稿済)	勝木祐仁、 <u>那須秀行</u> 、竹内宏俊、野口憲治、後藤裕樹
2) CompWood 2019 出張報告 International Conference on Computational Methods in Wood Mechanics で研究発表	単著	令和元年09月	日本工業大学研究報告 第49巻第2号, pp. 75-76	
3) EXPERIMENTAL STUDY WITH WALL PILLAR TYPE OF TIMBER STRUCTURE FOR MID-LISE LARGE SCALE	共著	平成31年03月	日本工業大学研究報告 第48巻第4号, pp. 127-128	吉田将宜、柳澤瑞穂、北村俊夫、 <u>那須秀行</u>
4) STUDY ON AN EVALUATION METHOD FOR THE DAMAGE LEVEL WITH CHECKING STRAIN OF WOODEN SHEAR WALL	共著	平成31年03月	日本工業大学研究報告 第48巻第4号, pp. 129-130	加藤大喜、森溪太、 <u>那須秀行</u>
5) 木材に関わる教育と研究	共著	平成30年03月	木材・合板博物館 季刊誌 PLY VOL. 4 2018 Spring号 pp. 9-10 木漏れ日散策02	<u>那須秀行</u> 、樋口佳樹、中里裕一
6) 一卷頭言ー建築学科の特徴と取り組み	単著	平成29年12月	日本工業大学研究報告 第47巻第3号, p. 1 (建築学科特集号)	
7) ー建築学科の教育理念ー建築学科の教育理念とディプロマポリシー	単著	平成29年12月	日本工業大学研究報告 第47巻第3号, pp. 2-3 (建築学科特集号)	
8) 特色ある教育理念 2×4 木造建築工房におけるプログラ	共著	平成29年12月	日本工業大学研究報告 第47巻第3号, pp. 20-23 (建築学科特集号)	勝木祐仁、 <u>那須秀行</u> 、野口憲治

(業績書様式第1)

ムの発展的展開 2005から2017まで					
9)	研究を通じた教育 実践 木質構造研究室 中高層スケルトン 躯体、制振技術等を 活用し、新しい木造 建築の可能性を広 げる	単著	平成29年12月	日本工業大学研究報告 第47巻第3号, pp. 72-77 (建築学科特集号)	
10)	潜在能力を発見す るために	単著	平成29年04月	日本工業大学通信 第206号 ようこそ、実工学の学び舎 へ	
11)	潜在能力を発見す るために	単著	平成28年04月	日本工業大学通信 第201号 ようこそ、実工学の学び舎 へ	
12)	カナダケベック出 張報告 WCTE 2014 木材技術国際学会 での論文発表	単著	平成28年02月	日本工業大学研究報告 第45巻第4号, pp. 96-97 (学内特別研究および国外 研修に関する特集号)	
13)	2×4 木造建築工房 によるカナダ研修 所での建設作業指 導	共著	平成27年06月	日本工業大学研究報告 第45巻第1号, pp. 290 (学内特別研究および国外 研修に関する特集号)	勝木祐仁、 <u>那須秀行</u> 、野口 憲治
14)	カナダケベック出 張報告 WCTE 2014 木材技術国際 学会での論文発表	単著	平成27年06月	日本工業大学研究報告 第45巻第1号, pp. 310 (学内特別研究および国外 研修に関する特集号)	
15)	2×4 木造建築工房 によるカナダ研修 所での建設作業指 導	共著	平成26年06月	日本工業大学研究報告 第44巻第1号, pp. 287 (学内特別研究および国外 研修に関する特集号)	勝木祐仁、 <u>那須秀行</u> 、野口 憲治
16)	2×4 木造建築工房 の活動 平成 21～ 25 年度の活動を中 心として	共著	平成25年12月	日本工業大学研究報告 第43巻第3号, pp. 31-34 (学内特別研究および国外 研修に関する特集号)	勝木祐仁、波多野純、 <u>那須 秀行</u> 、野口憲治、宮国勉
17)	ニュージーランド 出張報告 WCTE 2012 木材技術国際 学会での論文発表	単著	平成25年09月	日本工業大学研究報告 第43巻第2号, pp. 91-92 (学内特別研究および国外 研修に関する特集号)	
18)	2×4 木造建築工房 によるカナダ研修 所での建設作業指 導	共著	平成25年06月	日本工業大学研究報告 第43巻第1号, pp. 432 (学内特別研究および国外 研修に関する特集号)	勝木祐仁、 <u>那須秀行</u> 、野口 憲治
19)	ニュージーランド 出張報告 WCTE 2012 木材技術国際	単著	平成25年06月	日本工業大学研究報告 第43巻第1号, pp. 422 (学内特別研究および国外	

(業績書様式第1)

著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
学会での論文発表			研修に関する特集号)	
20) 木材繊維方向の組合せにより接合部剛性・強度および靱性を確保し制御する研究 平成24年度基盤研究(C)(一般)	単著	平成25年02月	日本工業大学研究報告 第42巻第4号, pp. 115-118 (大学院特集号)	
21) スウェーデン出張報告 ルレオ工科大、SPとの共同研究実施、協定締結に向けた同意書の内容擦り合わせ	単著	平成24年09月	日本工業大学研究報告 第42巻第2号, pp. 91-92 (学内特別研究および国外研修に関する特集号)	
22) スウェーデン出張報告 ルレオ工科大、SPとの共同研究実施、協定締結に向けた同意書の内容擦り合わせ	単著	平成24年06月	日本工業大学研究報告 第42巻第1号, pp. 451 (学内特別研究および国外研修に関する特集号)	
23) ジャパニーズバイキング	単著	平成23年10月	日本工業大学 青塔 Vol. 59 pp. 12-17	
24) 木質ラーメン構法で構築される住空間 ビッグフレーム構法	単著	平成19年05月	建築技術 No. 688, 07年5月号 特集 木造ラーメン構法で住宅をつくる, pp. 162-163	
25) 木造ラーメンフレームの振動特性	単著	平成18年04月	建築技術 No. 675, 06年4月号 特集 実大振動実験を木造住宅の設計に活かす, pp. 132-135	
26) 木質ラーメン構造の基礎知識	共著	平成16年02月	建築知識 No. 578, 04年2月号 いまどき「木構造」実践テクニック, pp. 182-185	野口弘行、 <u>那須秀行</u>
27) 木造軸組住宅[性能表示]の構造チェック、接合部	共著	平成13年06月	建築技術 No. 616, 01年6月号 特集 品確法に関するQ&A集 pp. 148-164	河合直人、 <u>那須秀行</u>
VII-3 学会・公共機関 に対する報告書				
1) 建築物に使用する木質構造用ねじに関する JIS 開発成果報告書	共著	令和02年02月	経済産業省委託 平成31年度工業標準化推進事業委託費 戦略的国際標準化加速事	木質構造用ねじの標準化(JIS化)本委員会の委員、分科会の主査として

(業績書様式第1)

			業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動	
2) 建築物に使用する木質構造用ねじに関する JIS 開発成果報告書	共著	平成31年02月	経済産業省委託 平成 30 年度工業標準化推進事業委託費 戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動	木質構造用ねじの標準化 (JIS 化)本委員会の委員、分科会の主査として
3) 木質構造用ねじの標準化提案に関する調査業務成果報告書	共著	平成30年03月	建材試験センター	木質構造用ねじの標準化 (JIS 化)本委員会の委員として
4) 外乱影響による構造躯体安全性評価手法の調査に関する研究会 第1期報告書	共著	平成29年10月	建築研究開発コンソーシアム	外乱影響による構造躯体安全性評価手法の調査に関する研究会の委員として
5) CLT の接合部データ収集・分析 事業報告書	共著	平成29年09月	平成 28 年度 林野庁補正委託事業 CLT 建築物等普及促進委託事業	「CLT等接合部データ収集・分析」検討委員会の委員および「現し・燃えしろ接合法」検討小委員会の委員として
6) WCTE2016 出張報告 WCTE 2016 における CLT 関連の項目を主として	単著	平成28年09月	(社)日本 CLT 協会	WCTE2016 (ウィーン) での最新海外研究状況についての講演会およびその資料
7) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究	単著	平成28年04月	京都大学防災研究所	一般共同研究報告書 課題番号：26G-10
8) OSB を用いた釘接合部のせん断性能確認試験	共著	平成27年07月	APA エンジニアード・ウッド協会 日本事務所	米国の非営利団体 (米国合板協会) の公式ホームページで公開された試験報告書
9) 木材繊維方向の組合せにより接合部剛性・強度および靱性を確保し制御する研究	単著	平成27年05月	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究成果報告書 基盤研究 (C) 研究期間：2012～2014 課題番号：24560696	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)
10) 木材繊維方向の組合せにより接合部剛性・強度および靱性を確保し制御する研究	単著	平成27年04月	(独)日本学術振興会 実施状況報告書 (研究実施状況報告書)	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)
11) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究	単著	平成27年03月	京都大学防災研究所	一般共同研究中間報告 課題番号：26G-10
12) CLT パネルを用い	共著	平成27年02月	平成 25 年度林野庁委託事	木構造振興株式会社が事業

(業績書様式第1)

た接合部のデータ等の収集・分析事業報告書			業 CLT 等新製品・新技術利用促進事業のうち CLT 実用化促進事業	主体として活動した研究のうち3章のLSB 単体試験を担当
13) 木材繊維方向の組合せにより接合部剛性・強度および靱性を確保し制御する研究	単著	平成26年04月	(独) 日本学術振興会 実施状況報告書 (研究実施状況報告書) (平成25年度)	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)
14) CLT を用いた木構造の設計法に関する検討報告	共著	平成26年03月	(社) 木を活かす建築推進協議会他主催 国土交通省国総研、(独) 建築研究所共催	委員会委員として執筆 第4章 L形T形パネル水平加力実験の一部を担当
15) CLT パネルによる構造の耐震性能に関する検討成果報告	共著	平成25年12月	(社) 木を活かす建築推進協議会他主催 国土交通省国総研、(独) 建築研究所共催	委員会委員として執筆 7. 「三層実大モデル静的加力実験 接合部の変形と破壊挙動」を担当
16) 木材繊維方向の組合せにより接合部剛性・強度および靱性を確保し制御する研究	単著	平成25年05月	(独) 日本学術振興会 実施状況報告書 (研究実施状況報告書) (平成24年度)	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)
17) クロス・ラミネイテッド・ティンバー構法の損傷限界・安全限界に関する検討	共著	平成25年03月	(社) 木を活かす建築推進協議会他主催 国土交通省国総研、(独) 建築研究所共催	委員会委員として執筆 第3章「三層実大モデル静的加力実験」の変形と破壊挙動部分を担当
18) 2008年度 木質構造教育プログラム小委員会 活動成果報告書	共著	平成21年02月	日本建築学会 委員会活動報告書	委員会幹事として執筆
19) 2008年度 木質構造教育プログラム策定小委員会 活動計画	共著	平成19年11月	日本建築学会 委員会活動計画	委員会幹事として執筆
20) 2007年度 木質構造教育プログラム策定小委員会 活動計画	共著	平成18年11月	日本建築学会 委員会活動計画	委員会幹事として執筆
21) 2005年度 木質構造教育プログラム策定小委員会 活動成果報告書	共著	平成18年02月	日本建築学会 委員会活動報告書	委員会幹事として執筆
22) 2006年度 木質構造教育プログラム策定小委員会 活動計画	共著	平成17年11月	日本建築学会 委員会活動計画	委員会幹事として執筆
23) 2004年度 木質構	共著	平成17年02月	日本建築学会	委員会幹事として執筆

(業績書様式第1)

造教育プログラム 策定小委員会 活 動成果報告書			委員会活動報告書	
24) 2003年度 木質構 造教育プログラム 策定小委員会 活 動成果報告書	共著	平成16年03月	日本建築学会 委員会活動報告書	委員会幹事として執筆
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
VII-4 国内・国外講演				
1) スウェーデン式枠 組壁工法における 摩擦系制振の開発 ～繰返される中地 震が制振耐力壁の 構造性能に及ぼす 影響～		令和02年03月	京都大学 生存圏研究所 2019年度 全国共同利用研 究報告会	京大生存研との共同研究 (2019WM-05:研究代表那須) の成果報告(招待講演 は新型コロナ対策で中止)
2) 枠組壁工法へのシ アリンク式摩擦ダ ンパー適用に向け た研究		平成31年03月	京都大学 生存圏研究所 H30年度 全国共同利用研究 報告会	京大生存研との共同研究 (30WM-05:研究代表那須) の成果報告(招待講演)
3) 制振素材の劣化を 想定した木造制振 耐力壁の効果に関 する研究		平成30年03月	京都大学 生存圏研究所 H29年度 全国共同利用研究 報告会	京大生存研との共同研究 (29WM-07:研究代表那須) の成果報告(招待講演)
4) 制振素材を用いた 木造耐力壁の耐力 劣化抑制効果につ いて ～性能の安定 性及び施工状態の 違いによる影響～		平成29年03月	京都大学 生存圏研究所 H28年度 全国共同利用研究 報告会	京大生存研との共同研究 (28WM-10:研究代表那須) の成果報告(招待講演)
5) 構造用合板による 高耐力構面の開発 と応用		平成28年12月	木質構造研究会	Timber Engineering Forum 2016
6) 制振素材による木 造住宅の耐力劣化 抑制に関する研究 ～素材の違いによ る影響について～		平成28年03月	京都大学 防災研究所 強震応答実験装置利用の成 果報告と今後の展望に関す る研究集会	京大生存研との共同研究 (26G-10:研究代表那須) の成果報告(招待講演)
7) 制振素材による木 造住宅の耐力劣化 抑制に関する研究 ～温度の違い、地震 波の違いによる影		平成28年03月	京都大学 防災研究所 強震応答実験装置利用の成 果報告と今後の展望に関す る研究集会	京大生存研との共同研究 (26G-10:研究代表那須) の成果報告(招待講演)

(業績書様式第1)

響について

8) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究	平成28年03月	京都大学 生存圏研究所 H27年度 全国共同利用研究 報告会	京大生存研との共同研究 (27WM-18: 研究代表那須) の成果報告 (招待講演)
9) 画像解析による木材のひずみ分布と割裂性状の把握に関する研究	平成27年12月	木質構造研究会	Timber Engineering Forum 2015
10) テープ状制振素材又は塗布状制振素材による木造制振耐力壁の効果に関する研究	平成27年12月	木質構造研究会	Timber Engineering Forum 2015
11) 制振素材による木造住宅の耐力劣化抑制に関する研究	平成27年03月	京都大学 生存圏研究所 H26年度 全国共同利用研究 報告会	京大生存研との共同研究 (26WM-15: 研究代表那須) の成果報告 (招待講演)
12) 海外で仕事をしてみよう! ~北欧での奮闘記~	平成26年10月	日本工業大学 ライブラリカフェ講演	
13) 海外木質構造の現状と展望	平成26年05月	明治大学	英語による講演
14) 海外木質構造の現状と展望	平成25年05月	明治大学	英語による講演
15) 木造ラーメン構造の開発、そして世界へ	平成23年11月	明治大学建築シンポジウム 明大の建築教育とキャリア ア・デザイン・プロダクト	第9回明治大学建築シンポジウム
16) 北欧スウェーデンとの木質構造技術コラボレーション	平成22年05月	東京工業大学	
17) スウェーデンと日本の木質構造技術コラボレーション	平成21年11月	明治大学建築シンポジウム 建築構造の未来と課題 pp. 17-22	第7回明治大学建築シンポジウム
18) Japanese innovative wooden building in Skellefteå ~ Collaboration between Sweden and Japan ~	平成21年10月 09日	ストックホルム市立図書館	ストックホルム日本人会主催の講演会
19) Japanese innovative wooden building in Skellefteå ~ Collaboration between Sweden and Japan ~	平成21年10月 09日	ストックホルム工科大学	スウェーデン建築家協会主催の講演会

(業績書様式第1)

20) Japanese Wooden Construction Technology		平成21年04月04日	Umeå 大学	Umeå 大学 Conference
21) Big Frame next		平成20年05月	Lureå 工科大	Lureå工科大 Conference
22) Big Frame		平成20年05月	Växjö大学	Växjö大学 Conference (Anders Gustafsson, Hideoyuki Nasu)
23) 日本の文化および建築技術について		平成19年06月	Seminarium Rotary Skellefteå	Skellefteå市地元ライオンズクラブにて講演
24) Big Frame		平成19年06月	Lureå工科大	Lureå工科大 Conference
25) 大学院進学を意識付ける		平成18年12月	明治大学	大学院進学を意識付ける講演会
26) 木質梁勝ちラーメン構造の技術開発手法と実例		平成18年08月	東京工業大学	
27) 日本の在来木造と木質梁勝ちラーメン構造の概要		平成18年07月	東京工業大学	
28) 純ラーメン構造と耐力壁構造の併用について		平成16年10月	木質構造研究会	Timber Engineering Forum 2004
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
VII-5 テレビ出演 新聞取材記事等				
1) 木造建築、耐力壁・新構法などの研究		令和元年11月	日刊工業新聞 「県内 5 大学、一押し産学連携」の特集記事	研究室の活動が新聞に掲載された
2) Roundtable Discussion on building with wood		平成29年04月	スウェーデン大使館	スウェーデンの大臣（住宅とデジタル化分野）との専門家会議へ招待をうけた
3) 特集 新たな「常識」を生み出す構造観 地域特性を考慮した構造設計		平成28年10月	建築技術 No. 801, 2016 年 10 月号, pp. 140-145	当該物件に用いられたK型ブレースについて共同研究を実施
4) 東松山農産物直売所		平成27年12月	新建築 2015 年 12 月号 pp. 122-129	当該物件に用いられたK型ブレースについて共同研究を実施
5) 今学校は		平成26年10月	読売新聞埼玉版	研究室所属の院生2名の取材記事

(業績書様式第1)

6) News Flash- NIT Engineering students build A new Gazebo for the Mine as their school project	平成26年04月	Bellevue Underground Mine	2×4建築工房 カナダでの研修授業で行ったプロジェクト掲載
7) レコメン研究室	平成24年10月	文化放送 ラジオ出演	木質構造研究室の活動紹介
8) Marken är i ständig rörelse under Japan	平成23年08月	Trä NUMMER 3 2011 pp. 30	スウェーデンの建築専門誌掲載
9) 進化した「木の家づくり」を海外へ	平成22年11月	住友林業 会社案内	スウェーデンでの共同研究プロジェクトの紹介
10) 教育機関への協力	平成22年10月	住友林業 環境・社会報告書 2010	東京工業大学、明治大学での講演についての記事
11) Earthquake in Skellefteå	平成22年06月16日	Norra Västerbotten 紙	新聞掲載
12) Japanerna följer svenska kärbygget	平成22年05月20日	News AFTONBLADET 紙	新聞掲載
13) Kårhusbygget gav Stefan Johansson jobbet tillbaka	平成21年09月09日	Norra Västerbotten 紙	新聞掲載
14) NHK 環境特別番組「SAVE THE FUTURE」	平成21年06月21日	NHK 総合テレビ 科学者ライブ グリーンテクノロジーで未来を救え	NHK TV 番組 協力/出演 日本がスウェーデンに供与する木質構造技術 (Big Frame 構法) に関し SP 王立技術研究所と進めているプロジェクトとして番組内で解説
15) Trähus i Skellefteå visas upp i Japan	平成21年06月18日	Norra Västerbotten 紙	新聞掲載
16) Japanska TV filmade när Skelleftebarn Slöjdade	平成21年06月08日	Skellefteå 市	Skellefteå 市広報 リリース記事
17) Japansk tv i Skellefteå	平成21年06月05日	Västerbottens Folkblad 紙	新聞掲載
18) Japanskt TV-team med vurm förträ	平成21年05月22日	Norra Västerbotten 紙	新聞掲載
19) Japansk byggt teknik bakom nytt kärhus Japansk byggt teknik bakom Skellefteås nya	平成21年05月26日	Martinsons社	Martinsons 社広報 Web 記事

(業績書様式第1)

kårhus			
20) Först i Europa med Big Frame-metoden	平成21年04月 24日	業界誌記事	Nordisk Trateknik SÅG & TRÄ 記事
21) Nytt japanskt kårhus	平成21年04月 11日	Skellefteå市 建設公団 Polaris	Skellefteå 市広報 Web 記事
22) CAMPUS NYA KÅRHUS Studenterna har fått bestämma	平成21年04月 04日	Norra Västerbotten 紙	新聞掲載全面記事
23) Japanskt nytankande i tra	平成20年11月 12日	Norra Västerbotten紙	新聞掲載全面記事
24) Japan inspirerar Skellefteas nya Kårhus	平成20年11月 12日	Norra Västerbotten紙	新聞掲載一面記事
25) Sumutomo utvecklar höghus i Skellefteå	平成19年10月	Technical Magazine	TRÄHUSBYGGANDE PÅ HÖG NIVÅ Nyheter om industriellt trähusbyggande pp.16-17
26) Träet öppnar dörrar till Japan	平成19年06月	Skellefteå Magazine pp. 4-5	市の広報誌
27) Opportunity Sweden スウェー デンと共に日本の 建築技術を欧州へ	平成19年06月	在日スウェーデン大使館の 公式ページの投資事例	
28) 白夜のスウェー デンにビッグフレ ーム構法を	平成19年06月	社内の季刊誌 樹海きこり ん新聞 海外だより pp. 15	
29) Japanska Träkonstruktioner - i Skellefteå	平成19年05月	Trä NUMMER 2 2007 pp. 28-30	スウェーデンの建築専門誌 に掲載
30) Sumitomo Forestry Vässar byggmetod	平成19年04月	NORDISK TRÄTEKNIK SÅG & TRÄ	建設業界誌
31) 住友林業と共同で 構造開発	平成19年04月	日刊木材新聞	スウェーデン王国研究グ ループとの共同研究記事
32) 100年耐久で家族3 代が過ごせる遺産 づくり	平成18年08月	住宅ジャーナル pp. 20	木質門型ラーメンフレー ム特集
33) 光と風と将来を欲 張る 3階建	平成18年04月	自家自費 住友林業カタロ グ ちょっと自慢のわが家 の実例集, pp. 21-24	ビッグフレーム構法特集 開発者に聞く
34) 世界&ユーザー視 点で前向きに挑戦 する	平成18年01月	住友林業の社内誌 樹海 「住友林業で何を実現した いか」 pp. 07	

(業績書様式第1)

35) 地震に強い家		平成17年12月	New HOUSE誌 pp. 110-114	
36) 百年後、この家に住む人たちはどんな海を見ているのだろうか		平成17年11月	BY・THE・SEA誌 pp. 92-95	生活デザイン系一般誌
37) 木の家を考える～研究所訪問記～		平成17年10月	Ahead誌 pp. 65-69	研究所および研究開発内容に関する解説
38) セインカミュが体験する「プラウディオBF」～光に憩う三階建の木の家～		平成17年06月	Ahead誌 pp. 66-67	自動車・バイク・住宅を扱った一般誌からの取材
39) 日本の木造建築技術		平成17年02月	中国新華社通信	日本の木造建築技術に関する取材協力
40) 開発技術が新聞に掲載		平成17年01月	日本経済新聞 日経産業新聞 日刊木材新聞	新開発「プラウディオBF構法」記事
41) Inforest Top News		平成17年01月	住友林業イントラネット	世界初の木質梁勝ちラーメン構造の記者発表記事
42) 在来木造住宅の強制不同沈下実験		平成12年09月	日経BP 日経アーキテクチャー 2000/9/4号 pp. 100-103	
著書・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行または 発表の年月日	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
VII-6 特許登録等				
1) 耐火クロス・ラミネイティド・ティンバー	共願	平成28年12月 08日	特許公開 2016-204958	発明者 渡邊拓文、 <u>那須秀行</u>
2) 梁の接合構造	共願	平成24年03月 09日	特許登録 4943819	特許登録済 小松秀彰、石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、栗山訓明
3) 複合部材及びこれを用いた建築構造躯体	共願	平成24年02月 24日	特許登録 4934432	特許登録済 小松秀彰、石山央樹、 <u>那須秀行</u> 、奈良岡智
4) 柱梁接合部の評価システム及び評価プログラム	共願	平成24年02月 24日	特許登録 4932171	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹、山本徳人
5) 木質系ラーメン架構及びその設計方法	共願	平成23年06月 24日	特許登録 4767520	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
6) ビッグコラム	共願	平成23年01月 28日	意匠登録 5387260	商標登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹、小松秀彰

(業績書様式第1)

7) 内装壁構造	共願	平成22年07月 02日	特許登録 4540450	特許登録済 上田明良、戸野正樹、中野一 郎、 <u>那須秀行</u>
8) 柱梁接続構造	共願	平成21年11月 20日	特許登録 4411178	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
9) 柱梁接合構造	共願	平成20年12月 29日	特許登録 4178157	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
10) ジョイントボック ス	共願	平成20年03月 06日	商標登録 5191910	商標登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
11) 柱梁接合構造	共願	平成19年07月 06日	特許登録 3981037	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
12) 柱梁接合構造	共願	平成17年11月 18日	特許登録 3742368	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
13) 梁の接合構造	共願	平成17年11月 18日	特許登録 3742369	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
14) 木造建築構造躯体	共願	平成17年11月 18日	特許登録 3713256	特許登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
15) 梁受け金物	共願	平成16年11月 19日	意匠登録 1227153	意匠登録済 石山央樹、 <u>那須秀行</u>
16) 梁受け金物	共願	平成16年08月 20日	意匠登録 1219039	意匠登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
17) 柱	共願	平成16年08月 06日	意匠登録 1217747	意匠登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
18) スクリューボルト	共願	平成16年01月 23日	意匠登録 1198959	意匠登録済 <u>那須秀行</u> 、石山央樹
19) 柱接合具	共願	平成18年07月 20日	特許出願 2006-188874	出願済 (審査請求中) <u>那須秀行</u> 、石山央樹
20) プレキャストコン クリートパネルお よびプレキャスト コンクリートパネ ルの取付方法	単願	平成11年10月 19日	特許出願 11-286998	出願済
21) 壁梁用補強筋構造 及び壁梁構造及び 建物の耐力壁構造	単願	平成11年10月 12日	特許公開平 11-280178	出願済
22) U字型断面を有す る梁及び柱梁接合 構造	共願	平成11年03月 31日	特許公開平 10-082135	出願済 <u>那須秀行</u> 、桐山伸一
23) 壁式ラーメン構造 の建築物	共願	平成11年03月 31日	特許公開平 10-082092	出願済 <u>那須秀行</u> 、桐山伸一
24) キャンティ架構	共願	平成11年03月	特許公開平 10-082090	出願済

(業績書様式第1)

		31 日		那須秀行、桐山伸一 以上
--	--	------	--	-----------------